

～生きがい作りデイ～

神奈川県平塚市

デイサービスセンター グッディ

管理者 笹原 淳

1 はじめに

デイサービスセンター グッディは平成25年2月に開設し定員10人、一日デイ5人、午前
半日デイ5人、午後半日デイ5人の小規模デイサービスです。

レクリエーション指導者及びアクティビティ・ディレクターが経営し小規模だからこそできる
こと、小規模ならではの目指して職員一同おもてなしの心を持って日々のケアに取り組んでいま
す。

利用者のやりたい事を見つけだし、それを実施できる環境を作ることが、利用者が本来持って
いる自分らしさを表現できることではないでしょうか。

2 事例の紹介

利用者の生きがい作りに取り組んでいる私共のデーサービスでは、利用者のやりたいことを見
つけるところから始まります。

生きがいを探す → 出来る環境を作る → 他者へ良い影響を与える

ご夫婦で利用されているIさん（男性 80代）は、週2回午前半日利用されています。

Iさんは認知症を患ってはいますが、後期高齢者の年齢ではあってもまだまだ体力があり体は
とてもお元気な方です。

ご利用当初は入浴され奥様と一緒にクラフト等の手作業を一生懸命やっていたらっしゃいました。
元々職人さんだったIさんは手先も器用ですが長時間は続かず、ご自はされず奥様が手作業さ
れている様子を見ている時間が多く過ごされています。

デイサービスを利用して二か月ほど経過すると奥様に「なんでこんなことをしなければならな
いのか」とお話しされていると伺いました。

私共が提供しようとしているアクティビティとご本人のニーズが一致していないことに気づき
ました。

Iさんのインタビューからやり直すことにしました。

「昔は良く2人で旅行したよ」、「一生懸命働いたよ」、「よく遊んだよ」等々。いろんなことを
話された中に、「ゴルフは会員権を持っていて、シングルプレイヤーを目指していたんだよ」とお
話しされました。

ゴルフのことをお聞きすると「練習も毎日のように行ったよ」「仲間と一緒に行って楽しかったよ」「コンペで優勝したこともあるよ」「ホールインワンも一回あるよ」と楽しかった思い出が次から次へと出てきます。

「車がなくなっちゃったから、もう行けないんだよ」と今は好きなことができなくなったとお話しされました。

奥様に伺うと運転で事故を起こすようなことが続いたので、お子さんが車の免許証を取り上げてしまったとのことでした。

「ここでゴルフやれるならやってみたいですか？」とお聞きすると「やりたいよ」と笑顔でこたえられました。

スタッフに「ゴルフやれないか？」と聞くと「どこでやれるんですか？」「無理に決まっています」「できるわけがない」となにをバカなことを言っているのかとの顔。

「別に本当のゴルフコースが必要なわけじゃない。グラウンド・ゴルフ、パークゴルフ、狭い敷地だけどやれないことはないんじゃないか、Iさんが興味を持つことを提供できないだろうか？」「お金をかけてまでは出来ないが、我々には知恵があり、工夫するスキルもあるし、幸いレクリエーション協会を通じての人的ネットワークもある。やれるだけやってみよう。」

ゴルフと名の付く道具を借りられそうな知人、役所、スポーツ協会を片っ端からあたってみると、ターゲット・バードゴルフの道具ならクラブ、ネット、ボールが何人分か長期で借りられる知人が見付き、ターゲット・バードゴルフ 1ホールを敷地内に作ることができました。

ターゲット・バードゴルフはピッチングウェッジかサンドウェッジを使って行うゴルフなので、ゴルフ経験者にはある程度違和感なく打つことができます。

初めてターゲット・バードゴルフをされる時Iさんは「何年ぶりかなクラブ握るの」「久しぶりだからボールに当たるかな」とおっしゃりながらとてもうれしそうでした。

ゴルフのカップにあたるネットに羽の付いたボールをいれるので、最初はなかなか入りませんが、本当のゴルフでシングルプレイヤーを目指してただけあってIさんはすぐにコツをつかんでネットに入れられるようになりました。

週2回利用されるIさんは、いらっしゃるたびに30分～1時間歩行訓練をかねてターゲット・バードゴルフの練習をされるようになりました。

スタッフ1名と一緒に始めましたが、Iさんはゴルフをするのはもちろん好きですが、それよりも人に教える事が好きだとわかってきました。

「クラブは3本の指で握ってみて」「スタンスはちょっと開いたほうがいいかな」等々とても教え方がやさしく親切でした。

スタッフにゴルフ経験者がいなかったので、当初はスタッフに教えてもらっていました。

スタッフがみるみるうまくなっていくので、他の利用者に教えてもらってはどうかと、Iさんに他の利用者への指導を任せてみることにしました。

Iさんは参加されたとどの利用者にも懇切丁寧な教え方をされて、とてもほめ上手で利用者を乗せてくれます。

Iさんに教えてもらって初めてゴルフクラブを握った認知症の利用者さんが4回目のショット

でネットに入ったのをとても喜ばれ、「グッディに行ってゴルフやったね」といつまでも覚えていてくれることもありました。

「教え方うまいね」と利用者に言われてIさんの教え方にも熱が入ります。

Iさんの奥様はご主人が生き生きと教えている姿を見て、昔に戻ったようだとおっしゃり喜んでいらっしやいました。

また娘さんも「またゴルフができるようになって良かったね」と喜ばれているとの事でした。

「来るときにね、ゴルフのセットを全部全部持ってこようと思ったんだ、女房に止められちゃったよ」とおっしゃることもあり、利用するのを楽しみにしていっしょにすることが伝わってきます。

私共畑作りも行っていますが、Iさんは積極的に畑のお手伝いもしていただけるようになり。ご利用頂くたびに「大きくなったな!」とおっしゃりながら野菜を収穫されます。

また、調理の仕事をしていた経験を生かして、収穫した野菜を調理して頂くこともあります。

手作業を「なんでこんなことをしなければならないのか」とおっしゃっていたIさんの姿はもうありません。

デイの中でご自分のやりたいことを見つけられ、そのことで他の利用者さんやスタッフにゴルフの先生と呼ばれる存在になり生き生きとした姿を見せてくれます。

3 考察

「昔は〇〇をよくやっていたんだよ」とおっしゃる利用者さんは沢山いらっしやいます。

「またやってみましょうか?」とお聞きすると「え!」とちょっとだけ嬉しそうな顔をして「でも〇〇だからできない」、「〇〇になったからもう駄目だよ」と返答します。

その人にあったアクティビティ、個別対応のケアとは言われていますが、実際環境を作ることはとても困難が伴います。

されど我々にあきらめない心、工夫する心、寄り添う心があればなにかがかわります。

Iさんの事例はたまたまうまく行ったのかもしれませんが、意志がなければなにも生まれない。私共はそうありたいと考えます。

4 終わりに

「グッディさんはいろんなことをやっただけです」とケアマネさんに良く言われます。

私共はいろいろなことをがやりたいから小規模デイを選択しているのです。

これからも一人でも多くの利用者が本来持っている自分らしさを表現できるようスタッフ一同日々のケアに取り組んでいきたいと考えます。